

[A年] 聖霊降臨節第7主日(2021年7月4日)**【旧約聖書日課】歴代誌下 6章12～21節**

12彼は、イスラエルの全会衆の前で、主の祭壇の前に立ち、両手を伸ばした。13境内の中央に縦五アンマ、横五アンマ、高さ三アンマの青銅の台を造らせてあったので、ソロモンはその上に立ち、イスラエルの全会衆の前でひざまずき、両手を天に伸ばして、14祈った。「イスラエルの神、主よ、天にも地にもあなたに並ぶ神はありません。心を尽くして御前を歩むあなたの僕たちに対して契約を守り、慈しみを注がれる神よ、15あなたはその僕、わたしの父ダビデになさった約束を守り、御口をもって約束なさったことを、今日このとおり御手をもって成し遂げてくださいました。16イスラエルの神、主よ、今後もあなたの僕、父ダビデに約束なさったことを守り続けてください。あなたはこう仰せになりました。『あなたがわたしの前を歩んだように、あなたの子孫もその道を守り、わたしの律法に従って歩むなら、わたしはイスラエルの王座につく者を絶たず、わたしの前から消し去ることはない』と。

17イスラエルの神、主よ、あなたの僕ダビデになさった約束が、今後も確かに実現されますように。18神は果たして人間と共に地上にお住まいになるでしょうか。天も、天の天も、あなたをお納めすることができません。わたしが建てたこの神殿など、なおふさわしくありません。19わが神、主よ、ただ僕の祈りと願いを顧みて、僕が御前にささげる叫びと祈りを聞き届けてください。20そして、昼も夜もこの神殿に、この所に御目を注いでください。ここはあなたが御名を置くと仰せになった所です。この所に向かって僕がささげる祈りを聞き届けてください。21僕とあなたの民イスラエルがこの所に向かって祈り求める願いを聞き届けてください。どうか、あなたのお住まいである天から耳を傾け、聞き届けて、罪を赦してください。

【使徒書日課】テモテへの手紙一 2章1～8節

1そこで、まず第一に勧めます。願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい。2王たちやすべての高官のためにもささげなさい。わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穩で落ち着いた生活を送るためです。3これは、わたしたちの救い主である神の御前に良いことであり、

喜ばれることです。4神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。5神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。6この方はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。これは定められた時になされた証しです。7わたしは、その証しのために宣教者また使徒として、すなわち異邦人に信仰と真理を説く教師として任命されたのです。わたしは真実を語っており、偽りは言っていません。

8だから、わたしが望むのは、男は怒らず争わず、清い手を上げてどこでも祈ることです。

【福音書日課】マタイによる福音書 7章1～14節

1「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。2あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる。3あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。4兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自分の目に丸太があるではないか。5偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。6神聖なものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう。」

7「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。8だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。9あなたがたのだれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。10魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。11このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。12だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」

13「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。14しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

歴代誌下 6章12～21節

12彼は主の祭壇の前に立ち、イスラエルの全会衆に向かい、両手を広げた。13ソロモンは、長さ五アンマ、幅五アンマ、高さ三アンマの青銅の台を造り、庭の中央に置いたので、その上に立ち、イスラエルの全会衆に向かってひざまずき、天に向かって両手を広げ、14祈った。「イスラエルの神、主よ、天にも地にもあなたのような神はおられません。あなたは心を尽くして御前を歩む僕たちに契約と慈しみを守られる方です。15あなたはあなたの僕、父ダビデに約束されたことを守られました。あなたはその口をもって約束されたことを、今日このとおり、その手をもって成し遂げられました。16そこで今、イスラエルの神、主よ、あなたの僕、父ダビデに約束されたことをお守りください。あなたはこう仰せになりました。『あなたが私の前を歩んだように、あなたの子孫もその道を守り、私の律法に従って歩みさえすれば、イスラエルの王座につく者が私の前から絶えることはない。』

17今、イスラエルの神、主よ、あなたの僕ダビデに約束されたことが確かに実現されますように。18神は果たして人間と共に地上に住まわれるでしょうか。天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの神殿などなおさらです。19わが神、主よ、あなたの僕の祈りとその願いを顧みてください。僕が御前にささげる叫びと祈りを聞き届けてください。20昼も夜も、この神殿に目を向けてください。ここは、あなたが、そこにご自分の名を置くと仰せになった所です。あなたの僕がこの所に向かって献げる祈りを聞き入れてください。21あなたの僕と、あなたの民イスラエルが、この所に向かって献げる願いを聞き入れてください。あなたは住まいである天からそれを聞いてください。聞いて、お赦してください。

テモテへの手紙一 2章1～8節

1そこで、まず第一に勧めます。願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人のために献げなさい。2王たちやすべての位の高い人のためにも献げなさい。私たちが、常に敬虔と気品を保ち、穏やかに静かな生活を送るためです。3これは、私たちの

救い主である神の前に良いことであり、喜ばれることです。4神は、すべての人が救われて、真理を認識するようになることを望んでおられます。5神は唯一であり、神と人との仲介者も唯一であって、それは人であるキリスト・イエスです。6この方はすべての人のための贖い〔直訳→身代金〕としてご自身を献げられました。これは、定められた時になされた証しです。7その証しのために、私は宣教者、使徒とされ、また異邦人に信仰と真理を教える教師とされました。私は真実を語っており、偽りは言っておりません。

8だから、私が望むのは、男は怒らず争わず、どこでも清い手を上げて祈ることです。

マタイによる福音書 7章1～14節

1「人を裁くな。裁かれないためである。2あなたがたは、自分の裁く裁きて裁かれ、自分の量る秤で量られる。3きょうだいの目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目ある梁に気付かないのか。4きょうだいに向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自分の目に梁があるではないか。5偽善者よ、まず自分の目から梁を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、きょうだいの目からおが屑を取り除くことができる。6聖なるものを犬に与えてはならない。また、豚の前に真珠を投げてはならない。豚はそれを足で踏みつけ、犬は向き直って、あなたがたを引き裂くであろう。」

7「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。叩きなさい。そうすれば、開かれる。8誰でも、求める者は受け、探す者は見つけ、叩く者には開かれる。9あなたがたの誰が、パンを欲しがると自分の子どもに、石を与えるだろうか。10魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。11このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天におられるあなたがたの父は、求める者に良い物をくださる。12だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」

13「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道も広い。そこから入る者は多い。14命に通じる門は狭く、その道も細い。そして、それを見いだす者は少ない。」

黙想のためのノート**次主日教会暦と聖書日課について**

・7月4日「聖霊降臨節第7主日」の日課主題は「祈り」。旧約日課には、神殿建設を終えたソロモン王が自ら奉献の祈りをささげたことを物語る箇所が「歴代誌」から選ばれている。使徒書日課は、若い同労者テモテに伝道者・教会指導者としての心得を助言するために記されたパウロの書簡の中から、牧会者としてささげる「すべての人のための執り成しの祈り」に関する勧めの箇所。福音書日課は、「山上の説教」の中から、直截に「祈り」について教える箇所ではないが、「天の父」に「求める」ことを教えている点において広い意味で祈りに関する教えである。

旧約日課(歴代下6章より)

・「歴代誌」は、ユダヤ正典「諸書」の最後に置かれた「イスラエル年代記」で、アダムからの系図から始めて、南王国の滅亡までを物語る。上下巻に分けて扱われているが、元来は一卷本。王国時代を中心に扱っており、「サムエル記」および「列王記」と並行する内容であるため、キリスト教正典「旧約聖書」では、「七十人訳ギリシア語版聖書」に倣って「列王記」に続く位置に補足文書的な意味合いで置かれている。「列王記」では、南北王国分裂時代の両国の歴代の王が限なく挙げられているが、「歴代誌」では、南王国の王がすべて挙げられているのに対して、北王国の王については南王国との関連のある王についてしか取り上げられていない。このことから、「歴代誌」編者には、南王国⇨ダビデ王家の正統性への関心が強いと推認される。一方で、「歴代誌」は明らかに「サムエル記」や「列王記」を資料の一つとして用いて編集されており、編集・編纂の時期は、正典「律法と預言者」が成立した後、バビロン捕囚後のペルシア支配時代の後期(前5~4世紀ごろ)またはそれ以降(ヘレニズム時代)であろうと考えられている。「エズラ記」「ネヘミヤ記」も同時代に編集・編纂されたと推認されており、一連の年代記的文書が一定の集団(おそらく「レビ人」と呼ばれる人々を中心とした祭司的伝統を継承する集団)の中で生み出されたものと推察されている。

・日課箇所は、ソロモン王の神殿奉献の祈りの場面で、6章全体がこの場面に当たり、「列王記上」8:12~50の並行箇所と大部で一致するが、一部で「歴代誌」独自の変更が見られる(別紙資料「ソロモン王の神殿奉献の祈り~列王記・歴代誌比較」を参照)。日課箇所中では、13節が「歴代誌」に特有の追加情報となっている。この「青銅の台」は、ソロモンが神殿のために造作させた「青銅の祭壇」(代下4:1)と寸法が異なることが強調されており、ソロモンの立ち位置が、祭壇に仕える祭司の立ち位置ではないことを示そうとしていると考えられる。一方で、この「青銅の台」は、モーセが幕屋のために造作させた「青銅張りの祭壇」(出27:1)と同じ寸法であり、これを示唆するものとして造作させた

とも想像させる。すると、ソロモンがその「青銅の台」の上に立って祈ったというのは、ソロモンが自らを「いけにえ」と見立てたのだと、「歴代誌」は示唆しているのかもしれない。

使徒書日課(Iテモ2章より)

・「テモテへの手紙一」は、使徒パウロの書簡集の中で「手紙二」「テトスへの手紙」と合わせて「牧会書簡」に分類される。近代の歴史批評的立場の新約学者はパウロの真筆性に疑義があるとして、パウロの後継者らの手による「第二パウロ書簡」の一つと呼ぶこともある。とはいえ、13の書簡からなる「パウロ書簡集」は、2世紀前半にはすでに一つのまとまりとして諸教会で受け入れられていたと考えられ、「第二パウロ書簡」としてパウロと切り分けて扱うべき教会的な理由はない。

・「テモテ」は、「使徒言行録」にも登場するパウロの宣教団に加わった若い伝道者で、ユダヤ人の母親とギリシア人の父親を持ち(使徒16:1)、母や祖母がキリスト教会に加わっていたことで早くから信仰を育てていたが(IIテモ1:5)、パウロは彼を宣教団に加えるに際して割礼を受けさせたとされる(使徒16:3)。テモテがいつまでパウロと行動を共にしたのかは不明だが、「コリントの信徒への手紙二」、「フィリピの信徒への手紙」、「コロサイの信徒への手紙」、「テサロニケの信徒への手紙一」、「同二」、「フィレモンへの手紙」には、パウロと並ぶ差出人として名が挙げられており、かなり長期にわたって行動を共にしたと考えられる。ただし、パウロは、自ら訪問できない地の教会に自分の名代としてテモテらを派遣することもあったようで(フィリ2:19以下など)、「テモテへの手紙」は、パウロのもとを離れて訪れたいずれかの教会にしばらく留まって指導者として働いているテモテに宛てて、助言するために記した書簡として整えられている。

・日課箇所では、「願いと祈りと執り成しと感謝」を「すべての人びとのため」にささげることが勧められている。「願い」は「デエーシス」、「祈り」は「プロセウケー」、「執り成し」は「エンテウクシス」、「感謝」は「エウカリストティア」の訳で、4種の祈禱行為が併記されていると解釈することもできるが、詳細は不明。これらの「執り成し」の対象が、教会に連なる者たちだけでなく、支配者層にも向けられているのは、「ローマ」13章などと同様で、パウロのキリスト信仰において徹底されることになった「すべての者にとっての神の絶対的中心性」に依拠した考え方。

・2節「信心(エウセベイア)」は、本書簡(Iテモテ)に特異的に用いられる語で、「真に(エウ)+敬う(セベオ)」が語源。「信仰・信頼(ピスティス)」が新約文書で広く用いられるのに対して、この語は、限定的にしか現れない。おそらく、日本語訳の「信心」が想像させるほど宗教的な意味合いはなく、「謙った敬虔な態度」を意味している。

福音書日課(マタイ7章より)

・日課箇所は、「山上の説教」の終盤に位置し、次主日日課に定められている後段(7:15~29)と合わせて、「山上の説教」全体の総括的位置づけを担っている。

・新共同訳は、1~6節→「人を裁くな」、7~12節→「求めなさい」、13~14節→「狭い門」と見出しを付けて区分しているが、別個の教えの羅列として見るべきものではない。すなわち、「黄金律」とも呼ばれる12節をもって「これこそ律法と預言者である」とされているのは、「山上の説教」冒頭の「律法について」(5:17~20)で「わたしが来たのは律法と預言者を…完成するためである」と告げられていたことと対になって「山上の説教」全体の枠を形成しており、7:12前後で述べられていることは、5:20「あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていないければ…」に対応した「まとめ」として告げられているのである。

・「山上の説教」は、5章後半で旧約の「戒め」から他者との関係性に関する具体的なことが教えられ、6章ではもっぱら自分自身の具体的な信仰実践に関する心構えが教えられていた。その基軸となっていたのが、「天の父」としての神との関係性であり、他者関係では「天の父の子」として「完全」であることを、自分の信仰実践の問題では「隠れたところを見られる天の父」という視座に立つことであった。これらに基づいて、日課箇所から始まる7章では、他者関係全般において信仰者のあるべき基本的な態度が結論的に示されているのである。そこで、7節「求めなさい」も、一般的な「祈り求めること」ではなく、他者との関係形成を目指す者としての「求め」に帰着させられている。

来週の誕生日(7月4日~10日)**主日礼拝の讃美歌から**

- ・21-10番「今こそ人みな」は、17世紀ドイツの代表的讃美歌作家P・ゲルハルトが同時代の教会音楽家J・クリューガーとのコンビで作った讃美歌の一つ。
- ・21-493番「いつくしみ深い」は、19世紀アイルランド出身の米国人J・スクライヴンが、最初の婚約者と次の婚約者を共に結婚式直前に亡くした経験の中で悲しむ母を慰めるために記した詩として発表。この歌詞のために、同時代の音楽家C・コンヴァースが作曲し、日曜学校用讃美歌集Silver Wings(1970年発行)で発表すると、後に音楽伝道者サンキーが紹介して広く歌われるようになった。現行英語讃美歌の多くでも所収され続けている。
- ・21-542番「主が受け入れてくださるから」は、20世紀半ばに始まった新しい讃美歌創作運動(ヒム・エクスプロージョン)の中心人物の一人フレッド・カーンの作詞。作曲はパナマ出身でジャマイカで教育を受けた作曲家ドレーン・ポッター。

21-10「今こそ人みな」**Nun Danket All und Bringet Ehr**

1. Nun danket all und bringet Ehr, / ihr Menschen in der Welt, / dem, dessen Lob der Engel Heer / im Himmel stets vermeldt,
2. Ermuntert euch und singt mit Schall / Gott, unserm höchsten Gut, / der seine Wunder überall / und große Dinge thut.
3. Der uns vom Mutterleibe an / frisch und gesund erhält / und, wo kein Mensch nicht helfen kann, / sich selbst zum Helfer stellt.
4. Der, ob wir ihn gleich hoch betrübt, / doch bleibet gutes Muths, / die Straf erläßt, die Schuld vergibt / und thut uns alles Guts.
5. Er gebe uns ein fröhlich Herz, / erfrische Geist und Sinn, / und werf all Angst, Furcht, Sorg und Schmerz / ins Merres Tiefe hin.
6. Er lasse seinen Frieden ruhn / in Israelis Land, / er gebe Glück zu unserm Thun / und Heil zu allem Stand.
7. Er lasse seine Lieb und Güt / um, bei und mit uns gehn, / was aber ängstet und bemüht, / gar ferne von uns stehn.
8. So lange dieses Leben währt / sei er stets unser Heil / und bleib auch, wann wir von der Erd / abscheiden, unser Theil.
9. Er drucke, wenn das Herze bricht, / Uns unsre Augen zu / und zeig uns drauf sein Angesicht / dort in der ewgen Ruh.

21-493「いつくしみ深い」**What a Friend We Have in Jesus**

1. What a friend we have in Jesus, / all our sins and griefs to bear! / What a privilege to carry / everything to God in prayer! / O what peace we often forfeit, / O what needless pain we bear, / all because we do not carry / everything to God in prayer!
2. Have we trials and temptations? / Is there trouble anywhere? / We should never be discouraged; / take it to the Lord in prayer! / Can we find a friend so faithful / who will all our sorrows share? / Jesus knows our every weakness; / take it to the Lord in prayer!
3. Are we weak and heavy laden, / cumbered with a load of care? / Precious Savior, still our refuge-- / take it to the Lord in prayer! / Do your friends despise, forsake you? / Take it to the Lord in prayer! / In his arms he'll take and shield you; / you will find a solace there.

21-542「主が受け入れてくださるから」**Help Us Accept Each Other**

1. Help us accept each other as Christ accepted us; teach us as sister, brother each person to embrace. Be present, Lord, among us and bring us to believe We are ourselves accepted, and meant to love and live.
2. Teach us, O Lord, your lessons, as in our daily life we struggle to be human and search for hope and faith. Teach us to care for people, for all, not just for some, to love them as we find them, or as they may become.
3. Let your acceptance change us, so that we may be moved in living situations to do the truth in love, to practice your acceptance until we know by heart the table of forgiveness, and laughter's healing art.
4. Lord, for today's encounters with all who are in need, who hunger for acceptance, for righteousness and bread, we need new eyes for seeing, new hands for holding on; renew us with your Spirit, Lord, free us, make us one!